

FROM KANSAI

つるやゴルフ大丸心斎橋店。
ゴルフスクールも併設する



ゴルファー需要にフィッティング



本格的な夏がやってきた。この猛暑、熱中症の心配もあり、アマチュアゴルファーには厳しい季節だ。そんなとき「インドアゴルフ」練習場の存在が教えられた。そういえば昔、GOLFバーなるものはやっていた。すでに消えた。実はあれから確実に「進化」を遂げ、いまでは高性能の弾道計測器とシミュレーターとが合体。質の高い練習や世界の有名ゴルフ場をリアルにラウンドしているかのような体験もできるという。まずはその進化の過程を探ってみよう。(田所龍一)

全国でブームに「インドアゴルフ」がどう進化しているのか。高速撮影による弾道計測器やゴルフシミュレーターなどを開発しているディテクト(東京都渋谷区)の浮谷卓匡社長(66)に「教えていただきます」。

「ゴルフ用品メーカがクラブを売るためのフィッティング用に作った計測器が始まりです。千コマから



スクリーンに向かって打ち込む＝大阪市中央区のつるやゴルフスクール大丸心斎橋

用品量販店 設備充実の試打室

現在、ゴルフ用品量販店の「試打室」はどうなっているのか。筆者がゴルフを始めた昭和55年のころの試打室は、ケージの中に入り約3分先の的(布製)に向かってたたきただけ。打球のデータどころか、スライス、フック、飛距離も分からない。「いい当たりかな」という自らの手の感触と店員さんのお世辞?が頼りだった。

そこで関西の大手ゴルフ用品量販店「つるやゴルフ」の大丸心斎橋店を訪ねてみた。なんと、5部屋の個室からなるインドアゴルフのスクールも併設されており、クラブを買いにきたお客さんもそこで試打ができる。

シミュレーション設備(ディテクト製)が完備され、大きなスクリーンに向かって打つと打球が飛んでいく。そして「飛距離」はもちろん「ミート率」「ヘッドスピード」「ボールの打ち出し角度」「スピン量」(左右のフ



④ボールがどういう角度で飛び出しているか一目で分かる
⑤インパクトの瞬間もとらえる



再現実況アップ
ディテクト営業部長の福井健太郎さんによれば「当時のシミュレーターは楽しむことを主眼にしたため、実際の弾道の再現精度が低かった。リアルではな

いから面白くない。徐々に飽きられてしまったんです」。

国内の業界では以後、シミュレーターの精度を上げる開発が進んだ。ディテクトは高速カメラを使ってインパクトの瞬間を動画で取り込み、ボールの正確なスピン量を計測できる機械「プレシオ」(平成25年)、「プリズム」(29年)を開発。「サイエンス・アイ・フィールド」を上回る約3千台を売り上げた。



り、全国のゴルフ用品量販店のほとんどが導入したという。

ボールのスピン量などを測定するため、ボールには印がついている



インドアゴルフの歴史を語るディテクトの浮谷卓匡社長(同社提供)

株式会社ディテクト

画像や動画をパソコンに取り込み、画像処理や計測、解析する器具を開発する企業として平成3年創業。自動車の先進安全技術や自動運転技術、航空宇宙分野での位置姿勢制御装置などの開発で、研究機関や多くの企業と連携している。

高速撮影して弾道計算するゴルフシミュレーターも商品のひとつ。最新作は「スイングベター」シリーズ。そのほか精子の動きを捉えて分析する不妊症の解析装置など医療分野も手掛けている。

この技術をシミュレーターに導入することによって精度も格段に上がったのである。浮谷社長は「インドアゴルフ」の現在をこう評す。

「コロナ禍のころ、インドアゴルフの存続も危ぶまれました。けれど「ゴルフは安全なスポーツ」となったことで流れが変わった。さらに国から助成金(事業再開補助金)が出たことで、多くのパチンコ店や他業種がインドアゴルフの練習場に転換した。いまは乱立した練習場が淘汰されている時期だと思っています。日本のインドアゴルフは練習場としての役割が大きい。そこが大事なところなんです」。

FROM KANSAI

アミューズメント化 韓国の主流に

いま、世界で「インドアゴルフ」が最も盛んな国は韓国といわれている。しかも日本で昔、流行してすぐになされた「GOLF BAR」形式。ディナーのあとにみんなでお酒を飲みながらゲーム感覚で楽しむといった真似た。なぜ、日本で伸びなかったこのスタイルが韓国では「主流」となったのだろうか。それぞれの国のインドアゴルフ事情を調べてみた。

(田所龍一)



街中に多数

「ソウルの街を歩いていると、たくさんのインドアゴルフ施設が見つかります。コンビニよりも多いんじゃないかな」と話してくれたのが、ゴルフ会員権の販売大手企業「住地ゴルフ」のCOOで、一般社団法人ゴルフライフデザインの代表理事を務める木下裕介さん(32)だ。

夜になると若者たちがネオン輝くインドアゴルフ施設へ入っていく。

「夕食の後の楽しみ。カラオケやビリヤードをするような感覚でインドアゴルフを楽しんでいます。もちろん、施設の中で飲食は自由。持ち込みもOK。それにより、1ラウンド2千〜3千円ほどの安さで人気の要因です」

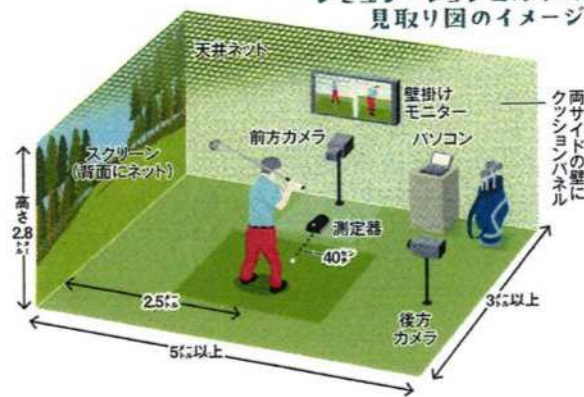
2010年、この日本でも一時期、ゴルフバーがはやった。だが、実際のラウンドに比べるとリアリティに欠けていたといえ、ゴルフシミュレーター開発企業のディテクト営業部長、福井健太郎さんは「そのうち飽きられてしまった」と話す。

手軽さ魅力

シミュレーションゴルフ

の弾道の正確さは2010年当時とは比較にならない。進歩を遂げた韓国の場合、「楽しさ」が加味されている。例えば、ナイスショットやナイスオン、パーやバーディーには拍手が起る。打球方向もラインで示すだけでなく、まるでボール

シミュレーションゴルフの見取り図のイメージ



韓国のインドアゴルフ施設にある、電車の車両を改造し内部をバー練習場にした設備。遊び心を演出する。(ディテクト提供)



「韓国ではインドアゴルフが一般的」と話すゴルフライフデザイン代表理事の木下裕介さん(同団体提供)



④韓国のインドアゴルフ施設のレンタルクラブ
⑤ソウル市内にある大規模なインドアゴルフ施設。40打席以上もある。(いずれもディテクト提供)



日本ではラウンド前の「練習場」

日本の「インドアゴルフ」事情はどうなのだろう。ディテクトの浮谷卓郎社長によれば「韓国がインドアゴルフを楽しむという『目的』なのに対し、日本はあくまで実際にラウンドするための練習場であり『手段』である」という。

だからシミュレーターに求めるものも違ってくる。

「韓国ではどうしてもアミューズメント(楽しみ)系となり日本は技術を向上させるツールが多くなるんです」

ディテクト製のシミュレーターが、ボールがどの角度で、どちら側

へ飛んだかをきちんとラインで示しているのは「それが分からないと練習にならない」という浮谷社長の指示によるもの。弾道解析データもゴルファーがそれを見るだけでなく、そのデータを「ゴルフレッスン」に役立ててもらおうという意図もある。

いつでも手ごろな値段で実際のゴルフ場でプレーできる日本と、気候や施設数などでの制約がある韓国。「インドアゴルフ」の進化が違って当然なのであろう。シミュレーションは、実際のラウンドの楽しさには勝てないのである。

「韓国では一度もゴルフ場には行ったことはないけれど、ゴルフはプレーしなことがある」という若いゴルファーが増えてきている。それだけインドアゴルフの存在が大きいんです」

韓国で「インドアゴルフ」がここまで発達した要因は、

①「ゴルフ場が少ない」日本でも年々、減ってきているが今も約2000のゴルフ場がある。だが韓国のゴルフ場は約500カ所だ。

②「プレー費」ゴルフ場では1ラウンド2万円から3万円。インドアゴルフは2千〜3千円。

③「寒い気候」韓国の冬は北海道より寒いとされるほど。ほとんどのゴルフ場は閉まる。天候に左右されず、安く楽しめるインドアゴルフが集まっている。

「いきなりゴルフ場や打ちっぱなしの練習場へ行くのは、若者たちにはハードルが高い。個室のインドアゴルフ場だと誰にも見られず1人で練習ができるし、スイングデータも見られるので上達が早い。それに室内で再現された世界中の有名ゴルフコースでプレーできるというのも楽しいですよ」

木下さんもインドアからゴルフを始めたゴルファーである。

FROM KANSAI



ダンロップスポーツマーケティングの大野貴志さん(右)と樋口昌芳プロ＝大阪府吹田市

屋外練習場減少 新たな受け皿に



巨額の相続税

公益社団法人全日本ゴルフ練習場連盟のホームページによると、全国練習場施設数調査で「アウトドア練習場施設の減少とインドア練習場施設の増加という傾向は変わらない」としている。

なぜ屋外ゴルフ練習場が減少傾向にあるのだろうか。ダンロップスポーツマーケティングのゴルフスクール営業部の大野貴志(49)によると、特に個人オーナーが運営する屋外練習場では巨額の「相続税」が要因という。

「練習場が数多くあったのは昭和30年後半から40年代にかけて。第1次ゴルフブームのときです。当時のオーナーたちから代わりする際、巨額の『相続税』がかかる。特に都心に近い練習場の地価は高いですからね。税金を支払うためには仕方ないんです」

練習場の広大な土地、売って住宅地にするか一部を宅地にして残りを商業施設に切り替えるか。「ゴルフ練習場がなくなるのは寂しい」と商業施設の中にインドアのゴルフ練習場をつく

近年、屋外ゴルフ練習場(行っちゃ放し)の閉鎖が目立ち始めたという。昨年3月には兵庫県尼崎市にある関西最大規模(約200打席)の練習場「尼崎テクノランド」が30年の歴史に幕を閉じた。経営していた企業によるゴルフ事業見直しが必要だが、全国的に屋外練習場は減少傾向にあるという。行き場を失った「ゴルフ」たちの「受け皿」として増え始めているのがインドアの練習場とされる。その「今」をみてみよう。(田所龍一)



ダンロップ・ゴルフスクールでの練習風景。大手のインドアゴルフ練習場開設が活発化しているという＝大阪府吹田市

ったオーナーもいたという。「関東では東日本大震災の影響もありました。震災でネットを支えている鉄柱が変形。それを直すには十

数億円はかかります。関西でも今後、老朽化した施設を改修するかどうか。その時に閉鎖するか存続させるかの決断が迫られるでしょう」。



④「RaRaLESSON」代表でティーチングプロの小川うららさん
⑤レッスンする小川うららさん(奥)＝兵庫県西宮市



個室でプロのレッスン

インドアゴルフ練習場のもう一つの形態が「個室」である。ネットに区切られた打席ではなく完全な個室。そこを舞台に活躍しているのが『RaRaLESSON』の代表でティーチングプロの小川うららさん(26)だ。

300近いユーチューブのゴルフレッスン動画のフォロワーは4万人超え。オンラインの個人レッスンも大人気だ。

筆者もユーチューブの「RaRaLESSON」で、ゴルフ歴45年目にして開眼した一人。「ドライバーはアッパースイングでボールを捉えて飛ばすクラブ。そのためには右側を大きく振りましょう!」と教えてもらいラウンドすると、今まで1度もなかった「つかまえた打球」が飛んだ気がした。

「そういってくださる方が一人でもいるとやりがいがあります。オンラインのレッスンでも、送ってもらったスイングの映像が前回より良くなっていたら「よくしゃあ!」となりますね」

小川うららさんは神戸市出身。「USGTF JAPAN」所

属のティーチングプロ。

「レッスンという観点から言うと、映像が見られるシミュレーションゴルフの方が上達が速い。若い人たちはオープンスペースの練習場に抵抗感があるようです。下手だから恥ずかしい。まだ他人に見られたくない…。だから個室の練習場が増えているのだと思います」

取材で訪れた練習場「oggi golf 夙川」(兵庫県西宮市)も2打席の完全個室。365日24時間営業というインドアゴルフの練習場だ。

小川さんは、自分の拠点となるインドアのゴルフ練習場の経営を計画している。

「基盤作りですから、慎重に検討しています。個室が5室、受付には常時、人がおり、ちょっとした談話ルームがあってコーヒーを飲みながらコーチと話ができる。駐車場もほしい。清潔で楽しい練習場にしたい。そしてそこを拠点に2部屋ぐらゐの小さな店舗を増やしていきたい」

実にしっかり者だ。夢実現はもうすぐそこまで来ているという。

メーカーとして地域貢献

都市部に出現

全日本ゴルフ練習場連盟ホームページの全国練習場施設数調査では「特に東京を中心とした大都市圏でチェーン店系インドア練習場施設の出店が目立っています」としている。屋外練習場施設の減少を受けて、新たな受け皿となっているのが「インドアゴルフ」ということになる。

関西でも、大手によるインドア練習場開設が活発化している。ダンロップスポーツマーケティングが大阪府吹田市で運営する「ダンロップ・ゴルフスクール」もその一つだ。ネットに区切られた打席が左右に計10打席。シミュレーターのスクリーンに向かって打つ。スクリーンに瞬時に表示されたインパクトの映像やヘッドスピード、ミート率などを確認する。「なぜ、スライスするのかを映像でデータで確認できる。これから、こういう形態の練習場が増えてくると思います」と大野氏はいう。

生が中学へ進学してもやりたい部活がない。あっても人数が集まらず大会にでられない。顧問の先生がいけないなどの問題を受け、スポーツ庁が令和3年度に新設した「地域運動部活動推進事業」の一環。都道府県や各自治体も部活動の地域移行に向けて動き出している。

その「部活動」にゴルフを一同社が働きかけ、神戸市内の小学生を集めた「体験会」が今年3月に神戸市北区の「ダンロップゴルフコース」で開かれた。

「ゴルフ人口を増やし、もっとゴルフを手軽に楽しんでいただくために、ゴルフ用品総合販売メーカーからできる使命があると思っています」とダンロップスポーツマーケティングの大野貴志氏は力説する。その一つが、神戸市が来年度から始めようとしている『コベカツ』への協力だ。

コベカツとは神戸市の中学生在が、放課後や休日に校区の枠を越えてスポーツや文化芸術活動など、各地域と連携した活動に参加できる新しい仕組みのこと。小学

FROM KANSAI

リアルと仮想融合 夢の新リーグ



屋内でシミュレーターを使ってチーム戦で争う男子ゴルフの「TGL」=2月17日、バームビーチガーデンズ（共同）

トッププロ間近に
「TGL」の世界とは
1月に実際に観戦した
住地ゴルフ最高責任者
(COO) 兼 一般社団法人
ゴルフライフェーズの代
表理事・木下裕介氏(32)に
ナビゲーターをお願いし
た。



最終章は「インドアゴルフ」の「未来」のお話である。いや、すぐその「明日」のことかもしれない。ことし1月に米国で開幕した室内ゴルフの新リーグ「TGL」がまさにそれだ。世界のトッププロが巨大スクリーンに向かってティショットを放つ「バーチャルゴルフ」と、天然芝の上で繰り広げられる白熱のショートゲームの「リアルゴルフ」が融合した新時代のゴルフ。いったいどんな世界なのか。扉を開けてみよう。



TGLに参戦しショットを放つ松山英樹(バームビーチガーデンズ、共同)

「TGL」出場6チーム

ボストン・コモンゴルフ

- ロリー・マキロイ
- 松山英樹
- キーガン・ブラッドリー
- アダム・スコット

オーナーはFenway Sports Group (MLBレッドソックスのオーナー)

ジュビターリンクス・ゴルフクラブ(GC)

- タイガー・ウッズ
- マックス・ホーマ
- トム・キム
- ケビン・キズナー

オーナーはフロリダを拠点とする投資会社

アトランタ・ドライブGC

- ジャスティン・トーマス
- パトリック・カントレー
- ビリー・ホーシェル
- ルーカス・グラバー

オーナーはアーサー・ブランク氏 (NFLファルコンズのオーナー)

ロサンゼルスGC

- コリン・モリカワ
- サヒス・ティーガ
- ジャスティン・ローズ
- トミー・フリートウッド

オーナーはセリーナ・ウィリアムズほか

ニューヨークGC

- マシュー・フィッツパトリック
- リッキー・ファウラー
- ザンダー・シャウフェレ
- キャメロン・ヤング

オーナーはスティーブ・A・コーエン (MLBメッツのオーナー)

ザ・ベイGC

- ルドビグ・オーベリ
- ウィンダム・クラーク
- ミンウ・リー
- シェーン・ローリー

アベニュースポーツ基金ほか

「野球やアメリカンフットボールを観戦するようにゴルフがスタジアムスポーツになっていくんです。アリーナの中は音楽が流れ、ファンは気象にお酒を飲みながら目の前のトッププロのプレーを楽しむ。そんな

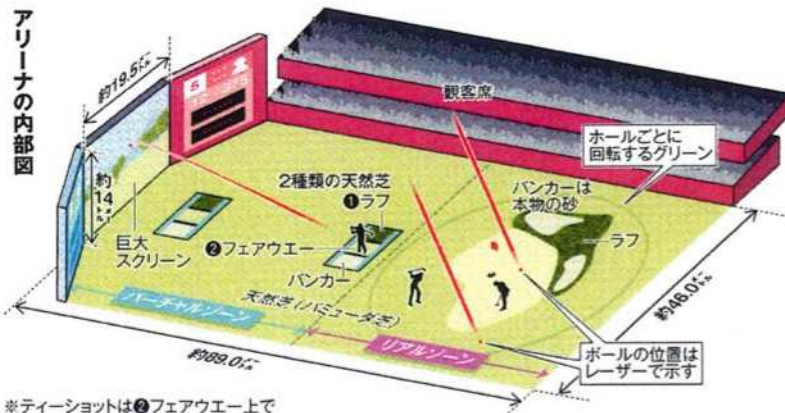
アリーナの中には巨大スクリーンがあり、選手たちはまずそれに向かってショットを放つ。打球は18台のリーダーと8台の光学カメラで解析され、スクリーンに投影される。これが「バーチャルゴルフ」。そして50ヤード以内のショートゲームは、アリーナのもう半分には、実際のゴルフと同じようにプレーする「リアルゾーン」だ。

「TGL」はトッププロのタイガー・ウッズ氏とロリー・マキロイ氏が設立した新リーグ。「TGL」の「T」は2人の設立会社「TMRW」から取られたといわれており、新時代のゴルフリーグというわけだ。

夢のような発想を実現してしまうところが、アメリカらしいなと思いました。アメリカは「TGL」は米フロリダ州バームビーチガーデンズ、バームビーチ州立大学のキャンパス内に建てられた専用スタジアム「Softi センター」で開催される。



①室内ゴルフの新リーグ「TGL」の会場を視察した住地ゴルフCOOの木下裕介氏(左)と小林忠広社長
②バンカーも設置している「TGL」の会場(いずれも住地ゴルフ提供)



※ティショットは②フェアウェイ上で

日本のフィリドほど。その周囲にスタンドがあり1500人近い観衆を収容できる。木下氏によると「観客を飽きさせないような工夫がされている」という。

日本も広がり期待
ゲームの面白さはもちろん、1ホールが終わると、運営スタッフが次のホールを設置する。グリーンは油

圧式で回転し、傾斜もポジションも変わる。

そのスタッフの素早い動きや設備の様子は、見ていて面白い。それに選手全員が胸にマイクを装着しており、選手同士の会話やチームの作戦も聞える。スクリーンの映像も最新のデジタルで、ピンに向かっていくボールが見え



4 ATL PATRICK CANTLEY 289 1 2 3 4 5

TGLとは

■世界トッププロ24選手が4人ずつ6チームに分かれ、勝ち点を競い合う総当たり戦でレギュラーシーズンを戦い、勝ち残ったチームでポストシーズンを戦う。
■賞金総額は2100万円(約32億円)、優勝チームに900万

円(約13億5000万円)。単純計算で1人当たり225万円(約3億4000万円)。
■ゲームに出場するのは4人中3人。米プロゴルフ協会(PGA)のトーナメントが終わった月曜日に開催される。

■競技は15ホールのマッチプレー団体戦。
■ポストシーズンの決勝戦(2試合制)がことし3月に行われ、アトランタ・ドライブGCがニューヨークGCを6-5、4-3で破り、初代王者に輝いた。

「近い将来、日本でもきつとこのようなゴルフが開催されるでしょう。気候に左右されず、交通の便のいい場所を楽しく、トッププロのプレーを楽しむ。ゴルフをやったことがない若い世代の人たちもこの楽しさに触れることでゴルフを始めるかもしれない。ゴルフの裾野は広がる。それが一番素晴らしいことだと思います」

「近い将来、日本でもきつとこのようなゴルフが開催されるでしょう。気候に左右されず、交通の便のいい場所を楽しく、トッププロのプレーを楽しむ。ゴルフをやったことがない若い世代の人たちもこの楽しさに触れることでゴルフを始めるかもしれない。ゴルフの裾野は広がる。それが一番素晴らしいことだと思います」

「近い将来、日本でもきつとこのようなゴルフが開催されるでしょう。気候に左右されず、交通の便のいい場所を楽しく、トッププロのプレーを楽しむ。ゴルフをやったことがない若い世代の人たちもこの楽しさに触れることでゴルフを始めるかもしれない。ゴルフの裾野は広がる。それが一番素晴らしいことだと思います」